

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1580 号	氏名	中村 太祐
学位審査委員	主 査	東家 亮	
	副 査	迎 寛	
	副 査	工藤 崇	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は stereotactic body radiation therapy (SBRT) を行った pathological diagnosis (PD) non-small cell lung cancer (NSCLC) と clinical diagnosis (CD) NSCLC の臨床的転帰を比較し、CD NSCLC に対して SBRT を行う際の胸部画像診断医による CT 読影の重要性を評価することを目的としたもので、研究目的として十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>2008 年から 2014 年に SBRT を受けた cT1-2N0M0 NSCLC 95 例を対象とし、臨床的特徴と治療成績を PD 群と CD 群の 2 群間で比較した。また、SBRT 前の胸部 CT 画像を、2 名の胸部画像診断医により評価し、肺病変の probability of malignancy (PM) を評価した。これは 2 つの診断法をもとに SBRT を行った症例の臨床的転帰を比較し、SBRT を行う際の胸部画像診断医による CT 読影の重要性を評価する目的に適った妥当な評価方法である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、Overall survival (OS) は PD 群と CD 群で有意差を認めなかった。胸部 CT 上の肺結節の分類では、充実型結節は部分充実型結節に比べて OS、cause-specific survival (CSS) が有意に不良であった。2 名の胸部放射線科医の PM 評価における κ 値は 0.95 であった。PM が 3 以下と判断された部分充実型結節の割合は充実型結節の割合より低い傾向が認められた。CD 群のサブ解析を行ったところ、高 PM 群は低 PM 群に比べて OS、CSS が不良である傾向が認められた。</p> <p>これらの結果から、CD NSCLC に対して SBRT の適応を検討する場合は、胸部画像診断医による正確な CT 読影、特に PM 評価が重要であることが示唆された。</p> <p>これらの解析と考察は妥当なものと考えられる。また、本研究の成果によって肺癌に対する SBRT の適応判断において胸部画像診断医が果たす役割が大きいことが証明された点は非常に意義が深いと考えられ、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			